

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第44週(10月27日～11月2日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	42週	43週	44週	44週	44週
インフルエンザ	4.00	▲11.00	7.67	3.53	14.90
新型コロナウイルス感染症	2.67	2.33	1.33	1.16	2.28
RSウイルス感染症	1.50	1.50	0.50	0.68	1.21
咽頭結膜熱	●3.00	●6.50	●6.50	0.65	0.26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	0.50	1.00	1.48	2.18
感染性胃腸炎	2.00	0.50	11.00	2.16	3.82
水痘	0	0.50	0.50	0.03	0.21
手足口病	0	0.50	0	0.23	0.21
伝染性紅斑	●2.00	●2.00	●3.50	●2.03	0.81
突発性発疹	0.50	0	0	0.39	0.24
ヘルパンギーナ	0	0	0	0.03	0.17
流行性耳下腺炎	0	0	0	0.03	0.03
急性出血性結膜炎				0	0.01
流行性角結膜炎				2.13	0.86
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.02
無菌性髄膜炎	0	0	0	0.08	0.06
マイコプラズマ肺炎	1.00	0	1.00	1.42	1.46
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0

急性呼吸器感染症(ARI)	35.33	43.00	32.33	68.65	80.02
---------------	-------	-------	-------	-------	-------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 インフルエンザを予防しましょう。 長崎県の第44週の報告数は180人で、定点当たりの報告数は3.53となりました。地区別にみると、佐世保地区(9.29)、県北地区(7.67)は、他の地区に比べて多くなっています。 インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。 今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。
【トピックス】 感染性胃腸炎に注意しましょう。 長崎県の第44週の報告数は67人で、定点当たりの報告数は2.16でした。地区別にみると、県北地区(11.00)は他の地区より多くなっています。例年冬期に患者数が増加する傾向にあります。今後も動向に注意しましょう。 本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。
【トピックス】 11月は「薬剤耐性(AMR)対策推進月間」です。 国は、平成28年度から毎年11月を「薬剤耐性(AMR)対策推進月間」として定め、薬剤耐性に関する全国的な普及啓発活動を推進しています。 「薬剤耐性」とは、感染症の原因となる細菌に抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです。 薬剤耐性(AMR)の拡大を防ぐためには、一人ひとりが抗菌薬を適切に使用することが重要です。 抗菌薬は、医師の指示どおりに適切な量を適切な期間飲みましょう。他の人に処方されたもの、家に残っているものを自己判断で飲まないようにしましょう。 また、抗菌薬の使用機会を少なくするために、感染症を予防すること、周りに拡げないようにすることも重要です。日ごろから、正しい手洗いの徹底やアルコール消毒、適切なマスクの使用などで感染予防に努めましょう。 (参考)AMR臨床リファレンスセンター:AMR対策推進月間キャンペーンサイト https://amr.jihs.go.jp/information/campaign2025.html